

松村ともなり

どんな区民の声も、
どんと来い!

無所属

活動報告レポート vol.3

1973年7月27日 台東区花川戸生まれ
尊敬する人：田中 角栄、高田 純次
趣味：ダイエット



発行：台東区議会議員 松村智成
〒111-0032
東京都台東区東上野4丁目5番6号7階
台東区議会 会派 つなぐプロジェクト
TEL:090-3498-8514 FAX:03-4243-2507
E-mail:matsumura@matsumura-tomonari.com

学歴
と
職歴

浅草寺幼稚園 卒園
台東区立浅草小学校 卒業
私立安田学園中学校・高等学校 卒業
東京商科学院専門学校 経営学専攻 卒業
建築資材メーカー 日綜産業株式会社入社
その後家業の「株式会社 松金商事」へ
花川戸一丁目町会青年部長

東部十二ヶ町青年部連合会 副会長
台東区立浅草小学校 PTA 会長 6年間
台東区立小学校 PTA 連合会 会長
台東区立浅草中学校 PTA 会長
台東区立中学校 PTA 連合会 副会長
青少年育成雷門地区委員会
青少年育成浅草橋地区委員会

新型コロナウイルス感染症における区への対応について

ワクチン接種や感染状況等は日々変化しております。レポート作成時の情報では皆様のお手元に届く時には無効になっている可能性も御座いますので、最新情報につきましてはお手数ですが下記をご参照ください。

<https://www.city.taito.lg.jp/index.html>

● 新型コロナワクチン関連情報

トップページ ▶ 健康・福祉

● 新型コロナウイルス感染症発生状況や濃厚接触者について

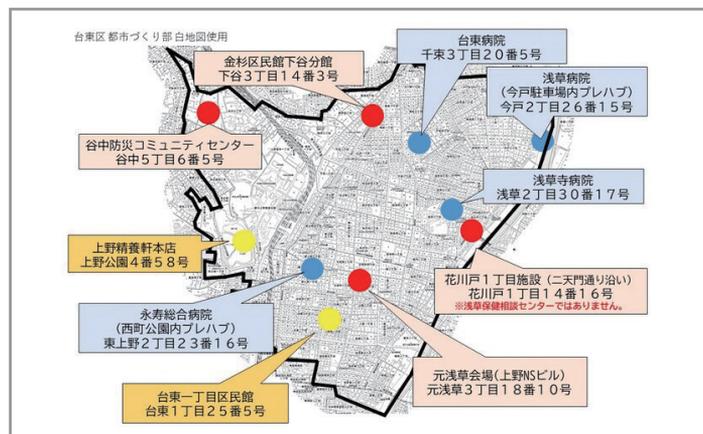
トップページ ▶ 区からのお知らせ ▶ 新型コロナウイルス感染症について ▶ 保健所からのお知らせ

● 花川戸1、2丁目をゾーン30へ



台東区立浅草小学校がある花川戸1丁目と同じ地域になる花川戸2丁目が指定される事になりました。（警視庁H.P.より）

● いち早く新型コロナワクチン接種会場を準備（花川戸一丁目施設、旧浅草保健相談センター）



病院での新型コロナワクチン接種が決まる前の段階で近隣の町会長らにご協力を賜り早々に接種会場が決まりました。

【なぜゾーン（区域）なのか】

交通安全対策の多くは、道路（線）や交差点（点）の問題解消等に主眼をおいて対策を行っています。これに対してゾーン（区域）で行う対策は、幹線道路等で囲まれた居住地域全体に交通規制や安全対策を実施することで、その地域の人が、クルマからおびやかされることなく安心して生活できる区域をつくることを目的としています。

初めて予算特別委員会に入り、次年度（令和3年）の決算について審議し、区長に2点教育長に1点質問させて頂きました。

● 解体工事における説明会義務化について

質問 建築計画の説明の義務と同様に解体工事についても、説明会等を条例により義務化（条例化）する必要があると考えるがどうか？

答弁 区では、解体工事に際して、「台東区建築物の解体等工事の事前周知に関する要綱」に基づき、騒音等の苦情の防止に努め、区職員が指導などの対応を行っています。説明会等の条例化については、検討して参ります。

● 今後の浅草地区まちづくりについて

質問 来年度の予算では、浅草全体を大きく変えるための本格的な検討は出来ない。観光とまちづくりの両方を兼ね備えた力強い施策を示す事が望まれる。今後の展開について、改めて区長の所見を伺う。

答弁 新型コロナウイルス感染症を乗り越え、新たな時代に即した観光地を実現するためのソフト施策や、まちづくりの課題を解決する基盤整備等を検討します。日本を代表する国際観光拠点として、新たなまちづくりビジョンの策定に取り組んで参ります。

● 来年度予算案における教育委員会の取り組みについて

質問 予算を削減した部分についてはどのように学びの機会を補っていくのか？またこの状況下でも滞りなく教育環境保全を進めていくべきと考えるがどうか？

答弁 ICT機器を充分に活用するなど、引き続き、質の高い学びの実現に取り組んでまいります。また、区の財政が厳しい状況にあっても、引き続き、教育委員会全体として、学びの機会をはじめとした教育環境の向上に全力で取り組んでまいります。

これまで東京2020大会を目標に無計画とも言える程ホテル建設が行われ、結局満足に使われる事はありませんでした。今後は残された建物がどうなっていくのか？等々心配は尽きません。そういった事が区民の皆さまにどのような影響が出るのか？またオリパラが終わる事や、新型コロナウイルス感染症の影響により暮らし方の変化が起こっており、それに伴い不動産の価格等への影響がどの様に起こるのか？こういった事も常に気にかけて取り組んでおります。コロナ禍で激変する社会情勢における住宅問題について次の2点質問しました。

● ホテルからマンションへの用途変更について

質問 建設済みのホテルが用途変更することにより、集合住宅条例等に合致しない住宅への転換も発生する可能性があるのではないかと危惧するがどうなのか？

答弁 様々な懸念については、松村議員と同様の認識をしています。条例の目的である、良好な住環境の形成に向けて、所有者に対する代替的な措置や、規制・誘導について検討して参ります。

● 区内の住宅市場や動向、ニーズの変化について

質問 働き方改革の進展により、新しいライフスタイルや多様な住まい方への関心が高まる中、コロナ禍を契機としたテレワークの推進が始まっている。そこで、住宅市場の動向やニーズの変化について、現状、台東区はどのように認識しているのか。

答弁 現在、新型コロナウイルスの影響はあまり見られず、需要の高い状態が続いています。その一方で、テレワークの普及により、職場と住まいの一体化が進んだため、より広い居住空間に対するニーズが高まり、郊外の住宅を希望する傾向も高まっていると認識をしています。今後、ワクチンの接種が進んだ際には、住宅市場の動向やニーズに更なる変化が生じる可能性もあるため、引き続き、現状の把握に努めて参ります。

